

営農タイムリー！

～いもち病注意報～

いもち病対策

・いもち病は苗代期から収穫期までの、イネの生育期間のほぼ全期間において発生します。

いもち病の発生しやすい条件としては下記の①～④の通りですが、京都府内では連日このような天候が続いており、発病していないほ場も注意が必要です。

- ①発生適温25～28℃が連続する時。
- ②降雨日数と降水回数が多い時。
- ③湿度90%以上の日が連続する場合。
- ④日照時間が短い場合。

・蔓延してしまうと対処が困難となり特に出穂後の穂いもちちは大幅な減収の可能性がありますので早期防除を行いましょう。

※主な被害や病斑は2ページ目参照

オリゼメート粒剤



作物名	適用病害虫	使用料	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病	3～4kg/10a	葉いもちには初発の10日前～初発時、穂いもちには出穂3～4週間前(但し、収穫14日前まで)	2回以内	散布	2回以内
	いもち病	3kg/10a	移植時	1回	側条施用	1回

コラトックス粒剤



作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ピロキロンを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病	3～4kg/10a	葉いもちに対しては初発10日前～初発時、穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	2回以内	散布	3回以内(但し、直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)



葉いもち



被害水稻



いもち病病斑



穂いもち(首いもち)